



知っておこう! こどもの事故

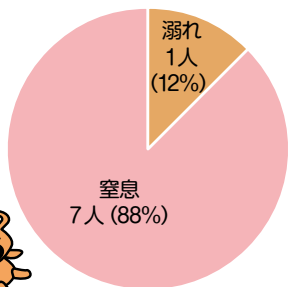


横浜市こどもの不慮の事故死 5年間の総数と割合

〔横浜市人口動態統計資料 平成30年～令和4年〕より

0歳 / 8人

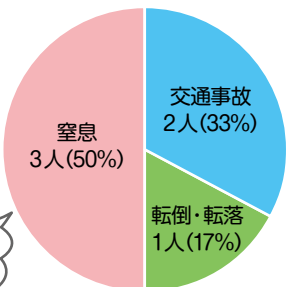
まだ自分で自由に
身動きが取れないため、
窒息による事故に
注意しましょう。



1～4歳 / 6人

外に出る機会が増え、
交通事故の割合も
増えてきます。

窒息には引き続き
注意が必要です。



こどもの安全・事故防止について (横浜市ホームページ)

横浜市のホームページに
こどもの安全・事故防止を
まとめた内容を掲載しています。
こちらをあわせてご覧ください。



<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kosodatechien/kodomoanzen.html>

確認しよう! いざという時の連絡先

こどもが病気、事故の時に! 医療電話相談

シャープなね いちいちきゅう
救急相談センター #7119 (携帯電話、PHS、プッシュ回線)
(24時間・年中無休) **045-232-7119** (全ての電話でご利用できます)

音声案内に従って番号を押すと、次のサービスにつながります。

1番を選択

その時受診可能な、医療機関案内を行います。
聴覚障害者専用ファックス 045-242-3808
FAX受付後に医療機関と調整の上、
折り返しいたします。

2番を選択

救急電話相談
看護師が、症状に基づく緊急性や、受診の必要
性についてアドバイスします。

中毒110番 公益財団法人 **日本中毒情報センター**
一般市民専用電話 (情報提供料は無料、応急手当や受診の必要性のアドバイス)

大阪 072-727-2499 365日 24時間対応
つくば 029-852-9999 365日 24時間対応

横浜市救急受診ガイド

<https://cgi.city.yokohama.lg.jp/shobo/kyukyu/jushinguide/>

アクセスはこちら▶



救急機関リスト

() 区休日急患診療所 メモしましょう



横浜市夜間急病センター (中区桜木町1-1)

☎045-212-3535

横浜市北部夜間急病センター
(都筑区牛久保西 1-23-4)

☎045-911-0088

横浜市南西部夜間急病センター
(泉区和泉中央北 5-1-5)

☎045-806-0921



ここが危ない!!



こどもの 事故 予防

一瞬で起る致命的な事故を予防しましょう!

横浜市子ども青少年局

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10

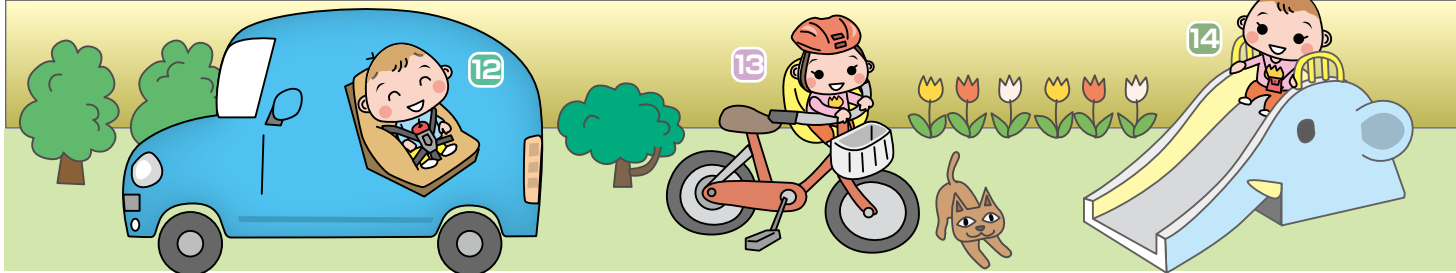
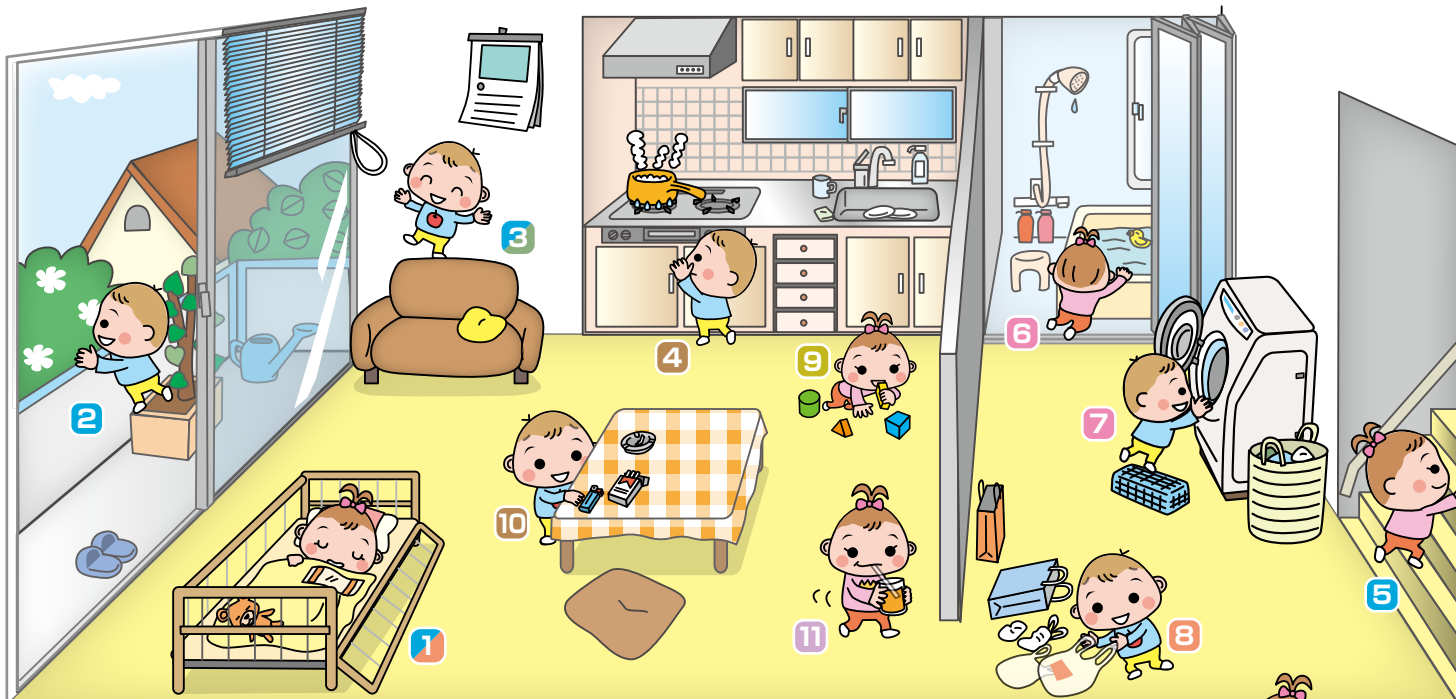
令和8年3月発行

横浜市

あっ!

ここが危ない! さっそく点検を

下のイラストを参考に、
致命的な事故を未然に防ぎましょう。
また、子どもだけを家に残して外出
することは避けましょう。



※抱っこひもやベビーカー使用時も取扱説明書を読み、バックルやベルトを正しく締めて使用しましょう。前にかがむ際には、必ず子どもを手で支え、ベビーカーは転倒することがあるので注意しましょう。

転落して頭を強打する危険

- 1 ベビーベッド
- 3 ソファ



ベッドの柵が一番上まで上げ、しっかりロックをしましょう。

- 2 ベランダ



近くに踏み台になるものは置かないようにしましょう。戸に鍵をかけるとともに補助錠やストッパーをつけて、窓が大きく開かないようにしましょう。

- 5 階段



ひとりで上り下りしないように柵をつけるようにしましょう。

(くわえたまま) 転倒してのど奥深くに突き刺さる危険

- 11 長いもの



ストローや歯ブラシ、箸のような長いものを口にくわえたまま走り回ったりさせないようにしましょう。

(自転車ごと) 転倒して頭を強打する危険

- 13 自転車



ヘルメットを着用させ、確実にシートベルトを締めましょう。子どもを乗せたまま、自転車を離れないようにしましょう。

やけどする危険

- 4 台所



熱くなる調理器具は手の届かないところに置きましょう。柵を付け、しっかりロックを掛けて、入れないようにしましょう。

- 10 居間など



ライターやタバコ(加熱式タバコを含む)、アイロンは手の届かないところに置くようにしましょう。

湯・水の中に落ちて溺れる危険

- 6 浴槽、ビニールプール



ひとりで風呂場に入れないよう入り口に外鍵をかけるようにしましょう。浴槽内や洗面器、ビニールプールなどに水や湯を残さないようにしましょう。

- 7 洗濯機



蓋を開けてのぞけないように、近くに踏み台になるものは置かないようにし、必ず蓋を閉めて、チャイルドロック機能などを利用しましょう。

息ができなくて窒息する危険

- 1 ベビーベッド



1歳になるまではあお向けに寝かせ、掛け布団は使用せず、スリーパーなどの着るものや空調で寒さ・暑さを調整しましょう。赤ちゃんの寝床には、何も置かずにシングルに整えましょう。

- 8 日用品

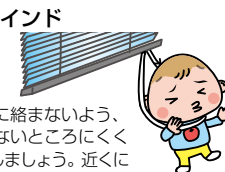


ビニール袋などの日用品は、子どもの手の届くところには置かないようにしましょう。

※添い寝の際には、大人の身体が赤ちゃんの口や鼻を塞いでしまうことがあるので注意しましょう。

ひもで首がしまって窒息する危険

- 3 ブラインド



ひもが首に絡まないよう、手の届かないところに置くようにしましょう。近くに踏み台になるものは置かないなど対策を講じましょう。

- 14 すべり台など



ひもやフード付きの服装は避け、かばんや水筒など引っ掛かる物は身に付けないようにしましょう。

のどに詰まって窒息する危険

- 9 おもちゃ・食品*など



ボタン電池やコイン、タバコ(加熱式タバコを含む)のような子どもの口に入る危険のあるものは、手の届かない場所に置きましょう。

車中に放置され熱中症になる危険 車のドアやパワーウィンドウに挟まれる危険

- 12 自動車



短時間でも子どもだけを残して車から離れないようにしましょう。ドアや窓は子どもが自分で開閉操作ができないようにロック機能を活用しましょう。

※窒息・誤嚥(ごえん)防止のため、ミニトマトやブドウ等、球状の食べ物は小さく切って食べさせましょう。豆・ナッツ類は5歳以下の子どもには食べさせないようにしましょう。

※チャイルドシートを必ず使用しましょう。
※駐車場では注意を払い、手をつなぎましょう。